

●大きなグループと小さなグループの相互関係

保育集団の大きさを研究した巨視的な視点での発表があります。大きな集団における保育者の態度は、子どもを眺めている時間は長いが、集団を管理することにエネルギーを注ぎ、教育的なかわりが少ない。小さな集団における保育者の態度は、子どもと交互のやり取り、例えば、質問、応答、教える、ほめる、慰める回数が多い。大きな集団における子どもの態度は、歩き回わり、活動に参加することが少なく、無感動で引っ込み勝ちであったが、小さな集団における子どもの態度は、

大きな集団の子どもより、考える（熟慮）、アイデアを出す遊びが多いと報告されています。（Traver 1987 年）ピラミーデは、クラス全員が集まるサークルタイムと小さなグループに分かれて展開するプロジェクトに分けて保育活動を行います。



〈小さなグループ遊びの相互関係の豊かさ〉